

グループ現代 映像祭

時代を映し、
未来へつなぐ。
60年間の記録が
今ここに。

2026 **3.3** tue - **7** sat
アテネ・フランセ文化センター

G グループ現代
Documentary Film Production

Time Schedule

	3.3 火	3.4 水	3.5 木	3.6 金	3.7 土
13:20	佐藤忠男、映画の旅 (98分) 2025 / DCP	山に生きるまつり (38分) 1970 / 16mm 奥会津の木地師 (56分) 1976 / 16mm	ラマ教の高地にて (90分) 1979 / 16mm 僕が生まれるずっと前の インド奥地の映像に ワクワクが止まりません。 杉山 (入社2年 AD)	BS1スペシャル ラップと知事選 沖縄若者たちの声 (49分) 2018 / デジタル 情熱大陸 民間月面探査プログラム HAKUTO-R (23分) 2025 / デジタル テレビ番組 入場無料	ヒバクシャ 世界の終わりに (116分) 2003 / デジタル
15:30	開会の挨拶 農薬禍 (38分) 1967 / 16mm 津南高原生産組合と 辻堂団地食品の会 (55分) 1972 / 16mm 帝国ホテル (30分) 1968 / 16mm	ある村の健康管理 (30分) 1969 / 16mm 老いる 5人の記録 (58分) 1979 / 16mm グループ現代に入って よかったと思えた作品。 仲宗根 (入社19年 D)	自然農川口由一の世界 (153分) 1997 / 16mm	16:00 月あかりの下で (115分) 2010 / デジタル	15:50 SAWADA (115分) 1996 / 35mm 監督の取材の 深さを感じました。 佐藤 (入社14年 D)
18:20	記録授業林竹二 ビーバー (40分) 1977 / 16mm 記録授業林竹二 アマラとカマラ (50分) 1977 / 16mm 地下からのアビール (30分) 1970 / 16mm	17:40 大日向村の46年(1部・2部) (155分) 1986 / デジタル トーク〈山本常夫〉 映像制作者として 監督に脱帽! 占部 (入社5年 D)	18:40 アイヌの結婚式 (34分) 1971 / 16mm チセアカラ (56分) 1974 / 16mm 追加取材(アイヌの結婚式 その後) (8分) 2024 / デジタル トーク〈小原信之、仲宗根千尋〉	18:30 まなぶ (92分) 2016 / デジタル トーク 〈太田直子、田野稔〉	18:20 坂野 (入社3年 AD) 動物が愛おしく思えて 童心に返る作品。 センス・オブ・ワンダー (107分) 2001 / 16mm トーク 〈上遠恵子 ※オンライン 堀田泰寛、秋葉清功〉 ※上映終了後に 準備が出来次第開始

※フィルムのコンディションにより上映媒体を変更する可能性があります。
また、やむを得ない事情によりプログラムやゲストが変更となる場合があります。

入 場 料 金

各プログラム入替制

1回券 一般1,500円／シニア・学生・障がい者1,200円／会員1,000円 全プログラム鑑賞券 10,000円
(限定30枚・複数人使用不可)

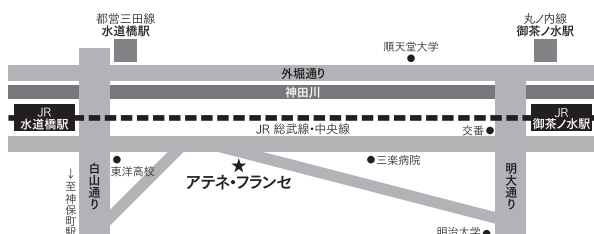
3回券 一般・シニア・学生・障がい者・会員 共通3,000円

当日券のみ／先着順 チケットは1回目の上映30分前から当日上映分を販売します。 ※テレビ番組は入場無料

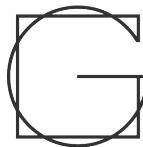
会 場

アテネ・フランセ文化センター

東京都千代田区神田駿河台2-11 アテネ・フランセ4階
(建物エントランスに入って右側にエレベーターがごございます)



お問い合わせ・連絡先



グループ現代

Documentary Film Production

誰かの今が、みんなの未来になる。

株式会社グループ現代

TEL: 03-3341-2863

東京都新宿区新宿2-3-15 大橋御苑ビル7階

主催: グループ現代 共催: アテネ・フランセ文化センター
企画立案: 佐藤創我 プログラム監修: 田野稔

JR「御茶ノ水駅」より徒歩7分／JR「水道橋駅」東口より徒歩10分／
東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水駅」より徒歩10分／都営地下鉄 三田線
「水道橋駅」より徒歩10分／都営地下鉄 新宿線「神保町駅」より徒歩12分

<https://atheneum.net/culturalcenter>

映像が刻む、時代の記憶

1965年の創設以来、グループ現代は「誰もが映像制作を実現できる場」であり続けてきました。環境、人権、文化、平和——。私たちが向き合ってきたテーマは、時代とともに変化しながらも、常に「今を生きる人々」に寄り添うものでした。

この映像祭では、60年の軌跡から厳選した24作品を上映。

映像とトークイベントを通じて、過去と現在、そして未来を紡ぎます。

「場の精神」——
1965年から続く
表現者たちの情熱。

上映作品

1 『農薬禍』 小泉修吉

1967年 38分 16mm

3/3 (火) 15:30
1966年、長野県南佐久地方の農村地帯で使用された農薬の害には恐ろしい公害があった。公害問題を追求、考察する作品。



2 『帝国ホテル - 失われたライトの遺産 -』 小泉修吉

1968年 30分 16mm

3/3 (火) 15:30
1967年、惜しまれながらも解体された「旧帝国ホテル」。フランク・ロイド・ライトの傑作と謳われた名建築の記録。



3 『ある村の健康管理』 小泉修吉

1969年 30分 16mm

3/4 (水) 15:30
長野県八千穂村では年1回、住民の健康診断や食事の指導を行っていた。当時の生活が垣間見える貴重な記録映像。



4 『地下からのアピール - 山本義隆 -』 ドキュメンタリー 映画集団

1970年 30分 16mm

3/3 (火) 18:20
東大全共闘代表・山本義隆が指名手配を受け地下に潜伏中、闘う学生たちに送ったメッセージを撮影した記録映像。



5 『山に生きるまつり』 伊藤碩男

1970年 38分 16mm

3/4 (水) 13:20
宮崎県の山間部、奥日向で続く“まつり”。猪の首を供え、神楽を奉納する様子を記録。民俗的価値の高い貴重な映像。



6 『アイヌの結婚式』 姫田忠義

1971年 34分 16mm / アイヌの人たち

3/5 (木) 18:40
からの呼びかけで撮影した記録映画。
【追加取材】2024年 8分 デジタル
2024年、北海道で開催された「アイヌの結婚式」の上映会。そこには主人公・小山妙子さんの姿があった。



7 『津南高原生産組合と辻堂団地食品の会』 小泉修吉

1972年 55分 16mm

3/3 (火) 15:30
日本の有機農業運動の先駆、新潟県津南高原生産組合と神奈川県辻堂団地食品の会の産直の取り組みを記録した。



8 『チセアカラ - われらいえをつくる -』 姫田忠義

1974年 56分 16mm

3/5 (木) 18:40
「アイヌの結婚式」の翌年に同じ村の人たちがアイヌ式の伝統的な家作りを復活させたアイヌの生活文化を記録。



9 『奥会津の木地師』 姫田忠義

1975年 56分 16mm

3/4 (水) 13:20
福島県南部の奥会津に暮らし木で生計を立てていた木地師。存命者を中心に当時の木地師の生活を再現し記録した映像。



10 『記録・授業 - ビーバー 人間について - 授業者・林竹二先生』 四宮鉄男

1977年 40分 16mm

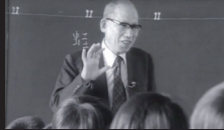
3/3 (火) 18:20
那覇市の小学生に教育哲学者・林竹二が行った授業の記録。ビーバーを題材に人間の本质を追求した授業。



11

『記録・授業 - アマラとカマラ 人間について - 授業者・林竹二先生』
四宮鉄男

1977年 50分 16mm

3/3(火)
18:20
教育哲学者・林竹二が行った授業の記録。狼に育てられたアマラとカマラを題材に人間の本質を追求した授業。

12

『老いる - 5人の記録 -』 小泉修吉

1979年 58分 16mm

3/4(水)
15:30
長野県の佐久地方で暮らす5人の老人たちの日常を、極力演出を排除し、音楽、ナレーション無しで制作。

13

『ラマ教の高地にて - インド・ラダックの旅 -』
国岡宣行

1979年 90分 16mm

3/5(木)
13:20
インド北部地域、ラダックの文化や生活、ラダック・ラマ教を中心に紹介した作品。

14

『大日向村の46年 - 満州移民・その後の人々 -』
山本常夫

1985年 155分 デジタル

3/4(水)
17:40
満蒙開拓の国策により人生を大きく翻弄された大日向村の人たち。凄絶な体験を語った彼らの証言を記録した映画。

15

『SAWADA 青森からベトナムへ
ピューリッツァー賞カメラマン沢田教一の生と死』 五十嵐匠

1996年 115分 35mm

3/7(土)
15:50
ピューリッツァー賞など多くの賞に輝いた報道カメラマン・沢田教一の生涯を追った長編ドキュメンタリー。

16

『自然農 川口由一の世界』 小泉修吉

1997年 153分 16mm

3/5(木)
15:30
無耕起、無科学肥料、無酵素…「自然農」の世界感を描くと共に、その具体的な方法を詳しく記録したドキュメンタリー映画。

17

『センス・オブ・ワンダー レイチェル・カーソンの贈りもの』
小泉修吉

2001年 107分 16mm

3/7(土)
18:20
レイチェル・カーソンの「センス・オブ・ワンダー」の舞台をたずね、著者の足跡をたどる「朗読ドキュメンタリー」。

18

『ヒバクシャ 世界の終わりに』 鎌仲ひとみ

2003年 116分 デジタル

3/7(土)
13:20
イラク・日本・アメリカ、世界各地に生きる「ヒバクシャ」たちの声を取材した長篇ドキュメンタリー。

19

『月あかりの下で ある定時制高校の記憶』
太田直子

2010年 115分 デジタル

3/6(金)
16:00
定時制高校に通う、さまざまな事情を抱えた若者たちの入学から卒業、そして“その後”までを追ったドキュメンタリー。

20

『まなぶ 通信制中学 60年の空白を越えて』
太田直子

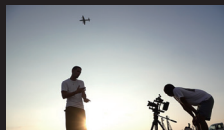
2016年 92分 デジタル

3/6(金)
18:30
戦後の混乱期、義務教育を受けられなかった高齢者たちが通う通信制中学校。人生の終盤につかんだ青春の記録。

21

『BS1スペシャル ラップと知事選 沖縄 若者たちの声／NHK』
仲宗根千尋

2018年 49分 デジタル

3/6(金)
13:20
2018年の沖縄県知事選。若者の本音を探るため沖縄のラッパーたちを取材。複雑な胸中をラップで綴る。

22

『情熱大陸 民間月面探査プログラム HAKUTO-R / MBS』
佐藤創我

2025年 23分 デジタル

3/6(金)
13:20
2025年、日本初の民間企業による月面探査プロジェクトの月面着陸が失敗、その舞台裏、知られざる奮闘に密着。

23

『佐藤忠男、映画の旅』 寺崎みずほ

2025年 98分 DCP

3/3(火)
13:20
映画評論の巨人・佐藤忠男。晩年を記録した教え子が、足跡を辿る旅に出て、佐藤が映画を通して夢見た世界を探る。

グループ現代映像祭

2026 3.3 tue - 7 sat

アテネ・フランセ文化センター